



# 鉄聖地巡礼

完全保存版

# あおもり ローカル 鉄道の旅

ゆる〜く、出発進行！



東北ゼンショー博覧会場だ。



## ガイド ローカル線 愛しき

かつて、川の流れて沿って文化が栄えたように、ローカル線の周囲には、独自の情緒が存在する。

- JR五能線
- 津軽鉄道
- JR津軽線
- 弘南鉄道弘南線
- 弘南鉄道大鰐線
- 青い森鉄道
- JR大湊線
- JR八戸線

特集 1

## あおもり鉄道遺産

さよなら十和田観光電鉄線、旧南部縦貫鉄道レールバス、幻の大間鉄道など。

特集 2

## あおもり珍駅伝説

心も和む珠玉の駅舎たち。その佇まいに包まれて、好奇心も旅をする。

特集 3

## 沿線の味巡礼ごはん

駅マエ、駅ナカ、駅近食堂など、一度は訪れたい愛でるべき巡礼ごはんを一挙公開。

Fast & Slow - local train in Aomori

# あおもりファースト&スローカル

～航空機や新幹線で一気に青森県へ。そこからローカル線でゆっくりと～

## ACCESS GUIDE



※ご利用される列車や日時によって、目的地までの所要時間が変わる場合がありますので、ご旅行の際はあらかじめ駅窓口にてお尋ねいただくか、大型時刻表でご確認ください。

●JR 東日本の時刻、運賃、料金、空席情報のお問い合わせ

☎ 050-2016-1600 (6:00～24:00)

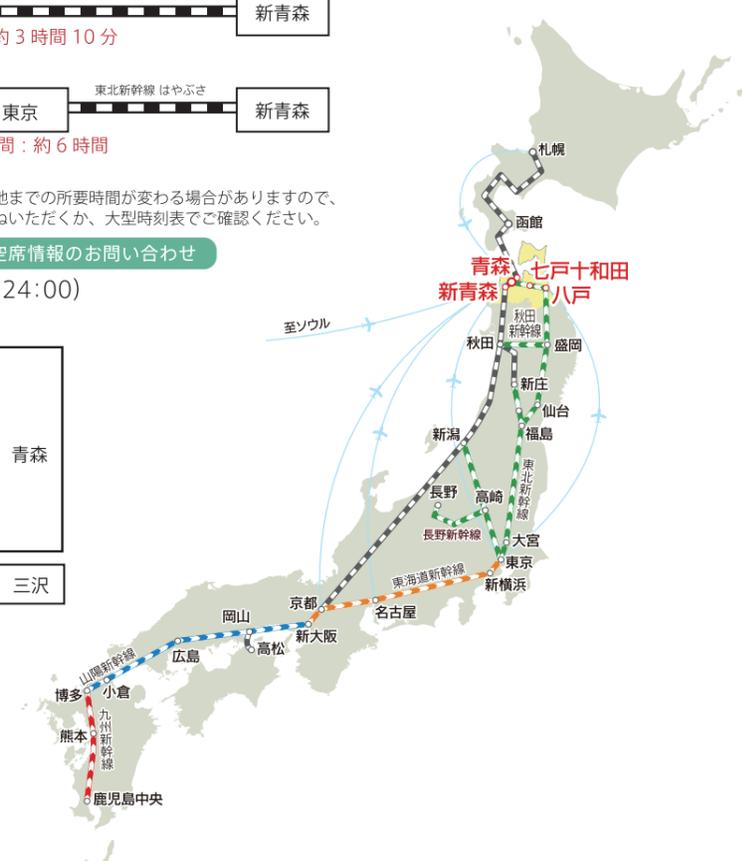
航空	所要時間	目的地
東京	1時間15分	青森
大阪(伊丹)	1時間35分	青森
札幌	45分	青森
名古屋(小牧)	1時間25分	三沢
東京	1時間20分	三沢

JAL 国内線予約・案内

☎ 03-5460-0522  
☎ 0570-025-071

FDA コールセンター

☎ 050-3786-0489



## 観光問い合わせ

- 青森県観光総合案内所(アスパム内) ☎017-734-2500
- 青森空港総合案内所 ☎017-739-2007
- 青森県東京観光案内所 ☎03-5276-1788
- 青森県大阪情報センター ☎06-6341-2184
- 青森県名古屋情報センター ☎052-251-2801
- 青森県福岡情報センター ☎092-736-1122
- 青森市観光交流情報センター ☎017-723-4670
- あおもり観光情報センター(JR 新青森駅) ☎017-752-6311
- 弘前市観光案内所 (JR 弘前駅) ☎0172-26-3600
- はちのへ総合観光プラザ ☎0178-27-4243
- 五所川原市観光案内所 ☎0173-38-1515
- 十和田湖総合案内所 ☎0176-75-2425
- 七戸町観光交流センター ☎0176-62-5150
- むつ市観光案内所 (JR 下北駅) ☎0175-34-9095

## 観光バス

(社) 青森県バス協会 ☎017-739-0571

## レンタカー

青森県レンタカー協会 ☎017-739-0560

## ホテル・旅館

全旅連「宿ねっと」 <http://www.yadonet.net.jp/>  
青森県旅館ホテル生活衛生同業組合 ☎017-777-3411



青森鉄道むすめ 芦野かな

【青森県観光情報サイト】 アプティネット <http://www.apinet.jp/>

【発行】 青森県観光国際戦略局観光交流推進課 ☎ 017-734-9384

※記載の情報は平成24年3月現在のものです。記載内容が変更となる場合がありますのでご了承ください。  
この印刷物は10,000部作成し、企画から印刷までの作成費用は1部あたり210円です。平成24年3月作成



# あおもりは、鉄道の宇宙だ。

新幹線おりに「遠かったな」と思いつつも便利になったなと思いつつ、在来線ホームで奥羽本線に乗り継ぎます。今の青森のローカル線の電車は都心の電車のつくりと良くはなっていますが、圧倒的に違うのがその空気感です。お客さんの雰囲気でしょうか、車窓の雰囲気でしょうか、なぜか落ち着く、長らく帰っていないな、そんなあたたかい雰囲気があるのです。新幹線がフランス料理とするとときんぴらごぼつみみたいな。

あつという間に着いた川部からは五能線に乗り継ぎます。ローカルなダイヤ、車窓がやってきました。昭和の時代にできた鋼鉄のボディ、うす緑色に塗られた機器類、かるやかなエンジンの声、車両自体もですが、ここでも不思議と、乗っているお客さんの表情やしぐさ、また車窓をみていると、なぜか懐かしい気持ちになるんです。まるで、おばあちゃんちに遊びにきたみたいなんです。味の染みた肉じゃがみたいな、愛情あふれる空間なんです。

ゆっくりゆっくり走って五所川原からはさらに津軽鉄道に乗り継ぎます。ここには実に珍しいストープ列車なる変わった列車が走っています。客室内にだるまストープがあり、スルメが焼けるのです。だるまストープすら見る機会が少ないうえに、それが列車の中にあるなんて！この車内には旅人がたくさん乗っています。みんな車窓を見たり、お酒を飲んだり、おしゃべりしたり、とても活気に満ち溢れています。いろんな臭いが入ったなべ料理みたいに、芯まであつたかくなるんです！

そんなローカル線の列車たちは今も走って、お客さんを運んでいます。ある時は勉強の足、ある時は仕事の足、思い出の足として走っています。ある時は満員で、またある時はガラガラで、ある時は学生を、ある時は旅行者を、雨の日も、晴れの日も、寒い日も、暑い日も、悲しい時も楽しい時もいつも変らぬ雰囲気乗客を迎えてくれます。

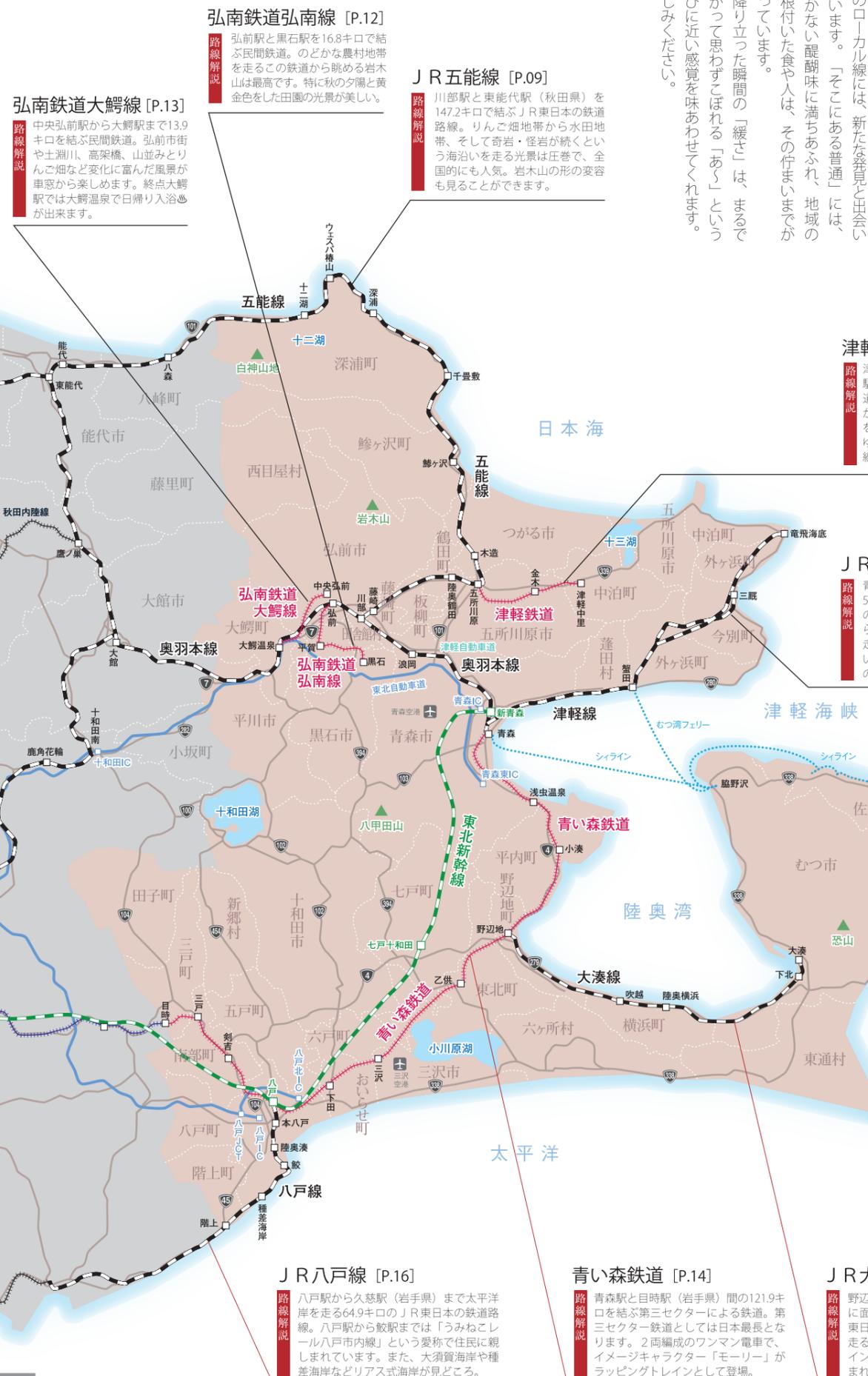
心にしみる優しさを充分感じて普段の生活にもどっても、自然とまた乗りたいと思つたのです。そんな魅力いっぱい、青森のローカル線、私もまた乗りに行きますよ。

YouTubeで  
本人メッセージも  
チェック！




# あおもりローカル鉄道路線図

青森県内のローカル線には、新たな発見と出会いが待っています。「そこにある普通」には、ここにしかない醍醐味に満ちあふれ、地域のくらしに根付いた食や人は、その佇まいまでが魅力になっています。ホームに降り立った瞬間の「緩急」は、まるで温泉に浸かって思わずこぼれる「あ〜」という安堵の喜びに近い感覚を味あわせてくれます。是非お楽しみください。



**津軽鉄道 [P.10]**  
 津軽五所川原駅と津軽中里駅を20.7キロで結ぶ民間鉄道。冬の「ストープ列車」が有名なほか、津軽三味線を聴いたり小説家・太宰治ゆかりの地を巡る旅など沿線の魅力がいっぱいです。

**J R 津軽線 [P.11]**  
 青森駅から三厩駅までの55.8キロを結ぶJR東日本の鉄道路線。津軽半島側から陸奥湾を望む海岸沿いを走ります。龍飛岬までのさいはて旅情を味わうにはこの路線です。

**J R 五能線 [P.09]**  
 川部駅と東能代駅（秋田県）を147.2キロで結ぶJR東日本の鉄道路線。りんご畑地帯から水田地帯、そして奇岩・怪岩が続くという海沿いを走る光景は圧巻で、全国的にも人気。岩木山の形の変容も見る事ができます。

**弘南鉄道弘南線 [P.12]**  
 弘前駅と黒石駅を16.8キロで結ぶ民間鉄道。のどかな農村地帯を走るこの鉄道から眺める岩木山は最高です。特に秋の夕陽と黄金色をした田園の光景が美しい。

**弘南鉄道大鰐線 [P.13]**  
 中央弘前駅から大鰐駅まで13.9キロを結ぶ民間鉄道。弘前市街や土淵川、高架橋、山並みとりんご畑など変化に富んだ風景が車窓から楽しめます。終点大鰐駅では大鰐温泉で日帰り入浴が出来ます。

**J R 八戸線 [P.16]**  
 八戸駅から久慈駅（岩手県）まで太平洋岸を走る64.9キロのJR東日本の鉄道路線。八戸駅から較駅までは「うみねこレール八戸内線」という愛称で住民に親しまれています。また、大須賀海岸や種差海岸などリアス式海岸が見どころ。

**J R 大湊線 [P.15]**  
 野辺地駅から大湊駅まで陸奥湾に面して58.4キロで結ぶJR東日本の鉄道路線。海岸沿いを走ることから「はまなすペライン大湊線」という愛称で親しまれています。

**青い森鉄道 [P.14]**  
 青森駅と目時駅（岩手県）間の121.9キロを結ぶ第三セクターによる鉄道。第三セクター鉄道としては日本最長となります。2両編成のワンマン電車で、イメージキャラクター「モーリー」がラッピング列車として登場。



全国的に有名になったストープ列車。車両も古く貴重です。寒ければ寒いほど、車内の熱気はあがります。



**Minamida yusuke**  
 芸能プロダクション「ホリプロ」の現役マネージャーでありながら、熱き鉄道ファンとして知られ某番組の鉄道コーナーにもたびたび出演するほど。またローカル線の旅もプロデュースするなどマルチに活躍中で、青森県にも訪れている。



青森駅。大阪行き夜行列車、特急「日本海」は2012年3月で引退。見送りをする普通電車も少しさみしげに見えます。

## 青森鉄道むすめ わたしたち「青森鉄道むすめ」も応援しています！ 「鉄聖地巡礼あおもりローカル鉄道の旅」。

 <p><b>弘南鉄道</b> トレインキャスト 平賀ひろこ (しらかひろこ)</p> <p>名前の由来 弘南線平賀駅と大鰐線弘高下駅から</p> <p>プロフィール： 実家は弘前の大規模りんご農家で、大人しい人柄だが、りんごに関することは妥協をしません。トレインキャストの中では「大人しい人柄担当」だが、研修であった他社アテンダントに憧れて「物静かで真面目担当」に変更したが、お気に入りの観光スポットは弘前城の桜。この説明は特に力が入る。</p>	 <p><b>津軽鉄道</b> アテンダント 芦野かな (あしのかな)</p> <p>名前の由来 芦野公園駅と金木駅から</p> <p>プロフィール： 津軽鉄道と共にゆったりと育てきた、のんびり屋さん。車内アナウンスでは、落ち着いた口調で分かり易く津軽弁の説明を行う。実家は、「赤〜いりんご」を手がける農家で、同じりんご農家の友人は高校時代からの大親友。五所川原「立役武多」は地元を誇りだと思っている。他の地域の友人と色々なお祭りに行くのも好き。</p>	 <p><b>南部縦貫鉄道</b> 車掌 七戸ちびき (しちのへちびき)</p> <p>名前の由来 七戸駅と千曳駅から</p> <p>プロフィール： 元気いっぴいの人柄でいつも笑顔に溢れている。周囲にはいつも父が絶えない。レールバス愛好会のイベントや運動会では、運行当時の女性車掌服を借りて着ている。そばが大好き。海産物も大好き。地元以外でも、お気に入り通っている横丁飲食店がある。</p>	 <p><b>十和田観光電鉄</b> アテンダント 清水なぎさ (しみずなぎさ)</p> <p>名前の由来 高清水駅と柳沢駅から</p> <p>プロフィール： 祖父の代から鉄道・バス事業などの交通関係に関わっている家系。父は県内の鉄道愛好会の会員でもある。物静かで真面目な性格、約束や時間も必ず守る。運行時間への対応も完璧。現代アートに詳しく、休日は周囲の美術館を友人と回ること多い。</p>	 <p><b>青い森鉄道</b> 駅員 八戸ときえ (はちのへときえ)</p> <p>名前の由来 八戸駅と目時駅から</p> <p>プロフィール： 八戸横丁飲食店の一人娘で、お店は遠方のリピーターも多い人気店。彼女の得意料理は鯖缶せんべい汁。お祭り好きで、身のこなしも軽い。明るく対応が好評。郷土芸能や芸術に興味があり、最近では現代アートにも関心が高い。</p>
---	--	--	---	--

鉄道ファンの方もそうじゃない旅方も、是非、青森県内のローカル線に乗って、ここにしかない魅力を満喫してほしいな。わたしたち「青森鉄道むすめ」も、鉄道の現場をはじめ、いろんな場面で応援していきますのでお楽しみに！

# 巡り 鉄道遺産

あおもり



青森鉄道むすめ 七戸ちびき

十和田観光電鉄、旧南部縦貫鉄道レールバス、幻の大間鉄道、下北交通大畑線、青函連絡船地下保有の貨物車など、青森のくらしと共に多くの歴史を紡いできた鉄道遺産に出会おう。



## 下北交通大畑線の勇姿を訪ねて

1939年(昭和14年)～2001年(平成13年) 下北～大畑間(18.0km)



2011年11月に行われた運転会ではこのヘッドマークを取付けて運転しました。



運転会でキハ85の内部撮影をするお客さんたち。

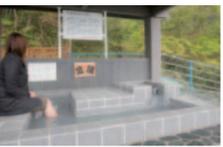
動態保存会が保守整備をしているキハ85形に体験乗車ができる。大畑線が敷設されたのは、かつて海軍基地があった大湊と海軍の要塞があった大間町とを結ぶためといわれています。戦後は通勤・通学だけでなく海産物やヒバなどの木材輸送にも活躍しました。1985年(昭和60)に旧国鉄から下北交通(株)に運営を移管し、キハ85形が1両編成で1日10往復の運行をしてきましたが、惜しくも2001年(平成13年)に廃止となりました。現在、大畑駅跡に3両が保存され、「大畑線キハ85動態保存会」によって動態保存されています。



**インフォメーション**  
●2012年度運転会(5月～10月 第3日曜日)大畑駅で、1日会員(入会金200円)になると、当日列車に何回でも体験乗車できます。  
(問) 大畑線キハ85動態保存会  
(HP) E-mail snfc2006@t00.itscom.net

## 「幻の大間線」巡礼 下風呂温泉郷メモリアルロード

1940年(昭和15年)着工～1943(昭和18年)工事凍結/大間～大畑間(未完成)



メモリアルロードの中央には足湯が設けられ、入浴しながら津軽海峡を望むことができます。



幻の大間鉄道。むつ市大畑地区から風間浦村へ行く途中に終戦間際まで造られたレンガ造りの陸橋。

**インフォメーション**  
7月中旬～10月下旬の毎週金・土曜17時から開催される下風呂温泉の名物「元祖烏賊様レース」は、イカのオーナーになってレースに参加し、その後はイカを調理してもらい食べることができます。  
(問) 活イカ備蓄センター ☎0175-36-2112



本州最北の町、大間。「幻の大間線」未成跡を訪ねて。下北～大間までを結ぶ鉄道として計画された幻の大間線は、昭和14年に下北～大畑間が大畑線として開通し、大畑以北も工事が進められ路盤の大半を完成させていました。しかし、昭和18年に戦時中の資材不足により工事は中止となり、幻の大間線となったのです。下風呂温泉郷にある連続アーチの遺構は、下風呂メモリアルロードとして改修され、新たな観光スポットとして生まれ変わり、今の姿を残しています。

## さよなら十和田観光電鉄線

1922年(大正11年)～2012年(平成24年) /三沢～十和田市間(14.7km)



昭和40年代～50年代のレトロな雰囲気漂う、三沢駅の駅舎。



十和田観光電鉄の三沢駅の情報あふれる「駅そばコーナー」

89年の歴史に幕もう一度「駅そば」を食べたい。三沢駅と十和田市駅間14.7キロを11駅で結んできた十鉄(とつて)の愛称で親しまれている十和田観光電鉄は、2012年3月31日で電車の営業運転を終了します。短い路線ながら、沿線には三農校前駅、北里大学前駅、工業校前駅があり、主に通学列車として活躍してきました。4月からはこの路線はバスによる運行に切り替わります。バスのりばでもあるレトロな三沢駅の駅舎や駅そばは訪れる人になつかしい電車の記憶を思い出させてくれます。



**インフォメーション**  
三沢駅「駅そばコーナー」営業時間7:00～19:30 無休(12/31、1/1は休み)  
☎0176-53-3139

## 南部縦貫鉄道のレールバス

1962年(昭和37年)～2002年(平成14年) /野辺地～七戸間(20.9km)



現在、機関庫に「キハ101」と「キハ102」の2両のレールバスの他、キハ104気動車、ディーゼル機関車及びラッセル車が保存され、見学できます。



南部縦貫レールバス愛好会では、レールバスの保存活動としてレアグッズを販売しています。

**インフォメーション**  
レールバスとおぼろ2012期間/2012年5月3日～5日 会場/南部縦貫鉄道旧七戸駅  
5月3日 車両展示・機関庫内の見学会  
5月4日、5日 レールバス体験乗車会(約800m、約7分間)  
(問) 南部縦貫株式会社内 南部縦貫レールバス愛好会 四戸 ☎0176-62-2131



レールバス一般公開 見学時間10:00～16:00 会場 南部縦貫鉄道旧七戸駅 (問) 七戸町観光協会 ☎0176-51-6100

## 青函連絡船メモリアルシップで再発見

1908年(明治41年)～1988年(昭和63年) /青森駅～函館駅間(113km)



静態保存される「キハ82 10」と「DD16 31」ディーゼル機関車。



八甲田丸内部はボランティアガイドが無料で案内してくれる。写真は元機関長の葛西さん。

**インフォメーション**  
JR東日本・青い森鉄道青森駅より徒歩5分、青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸は、駅構内から連絡船に続く車輪搬入口・引き込み線も残されています。車輪甲板には、北海道で特急として使用されたキハ82形特急形気動車や郵便車スユニ50などが展示されています。  
入館料 一般 500円 (問) 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 ☎017-735-8150

北の大地に乗った保存車両に、数々のドラマが偲ばれる。青函連絡船は旅客に加え、船尾より船腹に鉄道車輛をそのまま積み込んで津軽海峡を渡る鉄道連絡船であり、「海の上の鉄路」として多くの人生ドラマも乗せてきました。1988年(昭和63年)3月13日の青函トンネルの開通に伴い、同日をもって青函連絡船は廃止されました。青森発の最後の連絡船八甲田丸は、廃止された青函連絡船の岸壁にメモリアルシップとして係留保存されています。



## 住民手づくりの「向山ミニミュージアム」

(青い森鉄道向山駅)



当時使われていた駅員の机に、帳簿やスタンプなどを置いて昭和60年代の駅員室を再現。



向山駅で実際に使っていたレールを固定するハンドル類。

向山駅は1936年(昭和11)に開業。60年代には近くにフジ製糖青森工場が建設されたのを機に、貨物輸送拠点として盛んに利用されました。しかし、間もなく工場が閉鎖され利用客も減り、92年(平成4)に駅舎は無人数化となりました。

**インフォメーション**  
【向山ミニミュージアム】 開館日時 土日祝 9時～16時 入場無料



旧国鉄時代の懐かしい世界を再現 鉄道資料の数々に「お宝発見」 おいらせ町の青い森鉄道向山駅に、旧国鉄時代の品々が並んでいる手作りミニ博物館があります。約20年にわたって無人化された同駅の事務室に眠っていた古い資料が発見され、向山町内会が地域活性化に活かそうと、手作りのミニミュージアムを平成23年11月にオープン。鉄道工具や手書きの運賃表をはじめ、事務机、帳簿類、作業服、金庫など昭和30年代のレトロなものが並びが展示されています。鉄道ファンにとつてはまさに「お宝発見」です。

## あおもり 鉄道遺産年表

- 1900年(明治11年) 本州一北海道に新たな幕開け。3月青森駅と函館駅を津軽海峡を挟んで11.3キロを結ぶ青函連絡船が運航開始
- 1912年(大正元年) 8月、黒石駅と川部駅がつながる。旧国鉄黒石軽便線(1922年9月より黒石線)が開通
- 1922年(大正11年) 三本木駅(十和田市)と古間木駅(三沢市)間を14.7キロで結ぶ「十和田観光電鉄」が開業
- 1930年(昭和14年) 12月、本州最北まで。下北駅と大畑駅を18.0キロで結ぶ旧国鉄「大畑線」が開通
- 1943年(昭和18年) 3月、旧国鉄大間線(未完成)建設工事凍結
- 1962年(昭和37年) 10月、七戸駅と千曳駅(後の西千曳駅)を15.3キロで結ぶ南部縦貫鉄道が開通。全国でも珍しいレールバスとして、多くのファンを惹きつけた
- 1968年(昭和43年) 8月、千曳駅を西千曳駅と改め、西千曳と野辺地間を延長開業した
- 1969年(昭和44年) 高度経済成長期 「イサギ景気」が43ヶ月目に入る。史上最高のボーナス景気
- 1980年(昭和55年) 自動車生産台数が世界1位
- 1982年(昭和57年) 地価が2年連続してメタ上昇。バブルの始まり
- 1983年(昭和58年) 東京デイズニラント誕生
- 1984年(昭和59年) 10月、旧国鉄「黒石線」廃止。11月、弘南鉄道に引き継がれ、「弘南鉄道黒石線」として再開
- 1987年(昭和62年) 「国鉄」から「JR」となる
- 1988年(昭和63年) 「ふるさと創生」を全国市町村に1億円交付
- 1989年(昭和64年) 青函トンネル開通。引き換えに、青函連絡船は80年の歴史に幕を閉じる
- 1995年(平成7年) 阪神・淡路大震災発生。地下鉄サリン事件起ち
- 1997年(平成9年) 5月、「南部縦貫鉄道」レールバスが休止となる
- 1998年(平成10年) 4月、弘南鉄道黒石線廃止
- 2001年(平成13年) 4月、下北交通大畑線廃止。消費税5パーセント導入
- 2002年(平成14年) 8月、「南部縦貫鉄道」が廃止
- 2004年(平成16年) 12月、東北新幹線八戸駅開業。「はやて」運転開始。同時に東北線の八戸駅から目黒駅、「青い森鉄道」が運営
- 2004年(平成16年) 5月、動態保存となった「南部縦貫鉄道」レールバスが、愛好会の手で初めて構内800メートルを運行。毎年5月のゴールデンウィークなどに行われ
- 2010年(平成22年) 12月、東北新幹線全線開業。同時に青い森鉄道は青森まで延伸
- 2011年(平成23年) 3月11日東日本大震災発生。M9.0
- 2012年(平成24年) 3月、「十和田観光電鉄」三沢～十和田市間電車の営業運転終了

# 珍

あおもりローカル線

# 駅伝説



途中下車で出会う「珍」な駅伝説を楽しもう。  
「深いイ」ネタから「ゆるい珍百景」まで、  
青森県内の駅舎や沿線には、お宝がいっぱいなんですよ。

青森鉄道おすすめ  
清水なぎさ

## 足湯に浸かりながら温泉玉子

浅虫温泉駅の近くになんと「温泉たまご場」なるものがある。近くの店でたまごを買って、備え付けの力コに入れて15〜20分とろとろの温泉玉子のできあがり。泉質はナトリウム・カルシウム・硫酸塩・塩化物泉で、ほんのり味がつくので塩いらず。出来上がるまでの間、隣の足湯に浸かってまてはあつという間。たまご場は朝8時から午後5時まで使っている。



## 旅の思い出をノートに寄せて

日本海がすぐそばにある轟木駅には「旅ノート」が設置されている。ノートを開くと全国各地からここを訪れた人達の青森に対する想いが。「来てよかった」などの言葉で2冊はもういっぱい、3冊目に突入。思い出をここに綴るのも悪くない。



## 駅が喫茶店!?

現駅舎のすぐ隣に、旧駅舎が喫茶店になって残っている。すぐ裏のプラットホームには、お店からも出ることができるといふから面白い。しかもこの建物、作家太宰治の小説にも登場しており、太宰ファンが訪れることでも有名なのだ。名物「馬まん」は地元金木の特産品満載で大人気!



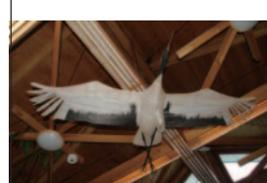
芦野公園駅/津軽鉄道

## 海拔0mの巨大温泉に行ってみた

五能線沿線、海岸と一体となった露天風呂が有名な黄金崎不老死温泉。日本海が目の前に広がり、海のさざなみの音を聞きながら大自然を堪能できる温泉だ。日帰り・宿泊が共にでき、効能は神経痛、腰痛、リュウマチ、創痛、皮膚病など。開放的な気分でゆったり楽しんでみてはいかがだろうか。



## 羽ばたく駅



五能線の陸奥鶴田駅ですがこの駅舎、何の形に見えるだろうか。実は「鶴田」という地名からツルが羽を上げた形。待合室の天井や壁は山小屋風にむき出しのヒバ材で、梁には「鶴風の会」製作の大きな鶴凧が2つ吊り下がっている。

野辺地駅/青い森鉄道



## 防雪林が守る駅

青い森鉄道の野辺地駅には、日本最古といわれる防雪林があります。地吹雪から守るため、1893年(明治26)に、岩手県水沢・青森間にスギとカラマツを植林。今ではこの野辺地駅に現在約700本残っているだけで、鉄道記念物に指定されています。



木造駅/JR五能線

## ビッグな「シャコちゃん」を目撃

駅がどかんと大きな遮光器土偶!? これは亀ヶ岡遺跡から出土した遮光器土偶ことシャコちゃんをイメージした木造駅。以前までは列車の発着に合わせて目が光っていたが、子供が怖がるために自粛しているそう。東北の駅百選に選ばれている。

本八戸駅/JR八戸線

## せんべいを天ぷらに



八戸地方にはせんべいを料理してしまう文化がある。代表格はB級で当地グルメで人気の「八戸せんべい汁」だが、最近ではほかにもさまざまなメニューが見られるようになってきた。人気屋台街にある「マンキ食堂」では、せんべいが天ぷらになっていた…!



## 吊革がりんごなんです



弘南鉄道大鰐線

弘南鉄道大鰐線の電車のつり革がりんごの形になっていた! 赤い丸に一個ずつ緑のフェルトが付いている。上部の説明書きを見ると『この吊り手のイメージは「りんご」葉のモチーフは「岩木山」』なんだとか。車両のつり革すべてがこの仕様になっており、ズラッとりんごが浮かぶ電車はちょっと他では見ない。また一車両に1個ハート型のものがあるそうなので探してみてください!

大鰐温泉駅・大鰐駅/JR奥羽本線、弘南鉄道大鰐線



青森駅/JR奥羽本線、JR津軽線、青い森鉄道

大鰐(温泉)駅では、巨大なピンクのワニが来る人々を歓迎している。何故ワニかというと…地元大鰐町のマスコットだから! このワニ、よく見ると右手にスキー板を抱えている。大鰐がスキーと温泉の観光地として繁栄してきた町だからだという。町の歴史と文化を背負い、憎めない表情のそのワニは今日もお客様をもてなしている。

## キハ27が八甲田丸前に



青森駅/JR奥羽本線、JR津軽線、青い森鉄道

## ホームに巨大なリンゴ

JR青森駅の連絡階段の両脇に気になる大きなリンゴが2つ。各ホームに1つずつ備え付けてあるのだが、パカッと開くと中には電話が。業務上の連絡用だそう。運が良ければ開けて使用している姿が見られるかも。

## イサバのカツチャを知ってるか



下北駅/JR大湊線

「イサバのカツチャ」とは魚の行商をしている元気なお母さん方のこと。八戸の市場では元気な「カツチャ」たちも名物のひとつ。陸奥湊駅前にカツチャを象徴する像もあるので記念撮影はいいかも。

三厩駅/JR津軽線



三厩駅から車で約20分のところに「エッ! 本当にこれが国道?」と思うかも知れませんが、れっきとした国道339号線で、バイクも車も通れない全国唯一の「階段国道」なのです。民家の軒先から362段の階段を上っていくと、龍飛埼灯台の下に出ます。

## 階段国道の謎

三厩駅から車で約20分のところに「エッ! 本当にこれが国道?」と思うかも知れませんが、れっきとした国道339号線で、バイクも車も通れない全国唯一の「階段国道」なのです。民家の軒先から362段の階段を上っていくと、龍飛埼灯台の下に出ます。



JR五能線

夕陽海岸と呼ばれる深浦の海岸線には変化に富んだ大小様々な岩が訪れる人の目を飽きさせない。鳥居崎、千畳敷のかぶと岩、ライオン岩など。なかにはその土地に住む人々の間で語り継がれてきた伝説が残されている名所も多いので、地元の方に聞いてみるとよりいっそう楽しめるかも。



弘南鉄道、津軽鉄道

## 味ある鉄が未だここに



弘南鉄道・津軽鉄道などの私鉄では、未だ切符鉄で切符を切ってくれる。自動改札もいいが、情緒ある風景も忘れたくない。(写真は中央弘前駅)

新青森駅/JR奥羽本線

## 鉄道模型運転会を目撃した

青森鉄道模型クラブ  
青森では、キッズと鉄道ファンに大人気の鉄道模型運転会がしばしば開催される。青森鉄道模型クラブの方々によるもので、イベント時に遭遇することが多いのだが…この運転会を、開業1周年のイベントの日に新青森駅で目撃。本物の駅で模型を運転するとは斬新! どこで開催されても、その人気ぶりは変わらない。



# 沿線の味礼巡

特集 3

青森鉄道むすめ 八戸ときえ

# ごはん

元気の出る食堂

青森県内の駅マエ・駅ナカ・駅近には是非とも後世に残したい、愛でるべき食堂や居酒屋などの珠玉の味わいがあります。沿線を途中下車しながら地域が愛した地元の味を堪能する「巡礼ごはん」。



**津軽百年食堂**

四代百二十年の味

津軽尾上駅から徒歩近く、近隣の人々に人気のある大十食堂。その始まりは明治初頭。名物の焼きそばは太めの平打ち縮れ麺で、自家製ブレンドのソースが絶妙にマッチ。代々受け継がれてきた味を今も守り続けています。

大十食堂  
☎0172-57-2022  
津軽尾上駅/弘南鉄道弘南線  
駅チカ 徒歩3分

ラーメンと焼きそばセットおにぎり付き  
看板メニューのラーメンは豚骨のベースに煮干しや気干しダシを加えたもので自家製平縮れ麺とよく絡み、スープまで飲みほせる。



**海の近くの洋食屋さん**

浅虫温泉駅から徒歩3分、地元民に人気の洋食屋さんシャルムがある。10年間継ぎ足している秘伝のデミソースを使ったオムライスや、29種類のパリエーションがあるピザはどれも絶品。

シャルム  
☎017-752-4311  
浅虫温泉駅/青い森鉄道  
駅チカ 徒歩3分

ウニピザ ウニがたっぷり使用された海の香りの「ウニピザ」。その他いか・あさり・えびが乗った「海の幸ピザ」も人気。



**大洋食堂**

JR陸奥湊駅から徒歩近くにある大洋食堂。ここ的人气が「はやて定食」。刺身3点と小鉢1品を選び、渡された紙に自分で呼んでもらいたい名前と一緒に書いて渡すと、「～さんできましたよ!」と元気なおばちゃんが料理を運んでくれる。温かみあふれる大衆食堂だ。

大洋食堂  
☎0178-33-0050  
陸奥湊駅/JR八戸線  
駅チカ 徒歩3分

はやて定食 約20種類の刺身から3点、約30種類の小鉢から1点を選べる「はやて定食」。その他にいちご煮と小鉢、ご飯が付く。



**津軽百年食堂**

昔ながらの津軽そばか、そば屋のカレーか。

100年以上の歴史をもつ弘前市の大衆食堂。はじめは屋台のそば屋からだった。名物の昔ながらの津軽そばは今では出すお店も少なくなってきた、津軽の食文化。ダシのよく効いたカレーライスも懐かしい味。

三忠食堂本店  
☎0172-32-0831  
弘前駅/JR奥羽本線・弘南鉄道弘南線  
その他 徒歩15分

津軽そば 練ったそば玉を2、3日寝かせ、その後大豆の粉をつなぎに使って練り込んでいるそう。



**津軽百年食堂**

昨年お店をリニューアル。

創業100年以上になる亀乃家は五所川原立佞武多の館の裏手にあります。お店をリニューアルして過ごしやすい店内。気さくなご主人との会話も楽しく、人気メニューの天中華は食べる価値ありの絶品です。

亀乃家  
☎0173-35-2474  
五所川原駅・津軽五所川原駅/JR五能線・津軽鉄道  
駅チカ 徒歩5分

天中華 和風トンコツの優しいスープに、ホタテを使用したかき揚げがマッチ。ほたての旨みが溶け出します。



**創作メニューに大注目!**

店名に負けずメニューもユニークで地元民から親しまれる駐車場食堂。定食や丼ぶり、カレーやラーメンの他カニみそラーメンなど食堂メニューの他、お刺身と味噌貝焼きが付く下北定食など、メニュー豊富。「他にないメニューを食べてもらいたい」というご主人が創り出す料理は一度試してみたいものばかり。

イタリアみそラーメン  
人気のイタリアみそラーメン。味噌スープをベースにトマトやチーズを加えたアイデア溢れるラーメン。

駐車場食堂  
☎0175-22-2674  
下北駅/JR大湊線  
その他 徒歩30分



**松浦食堂**

ご伝統の茶粥を賞味あれ。

正確な年代は不明だが、東北本線の開通と歴史を同じくする老舗食堂。店の看板メニューは陸奥湾でとれた新鮮なホタテを使用したホタテ丼。また、最近評判なのが茶粥定食。元々この地域では古くから朝食に茶粥を食べる風習があり、それも伝統を守りカワラケツメイ茶を使用した素朴な逸品。

茶粥定食 茶粥定食は茶粥に当地方の郷土料理が6品付く。要予約だが食べる価値ありの定食。

松浦食堂  
☎0175-64-3004  
野辺地駅/青い森鉄道  
駅マエ 徒歩1分

**八戸駅/JR東北新幹線、JR八戸線、青い森鉄道**

**八戸小唄寿司**

創業明治25年の老舗が作る青森駅弁の王道。今も昔も変わらない味で、ダントツの人気を誇る。

1,100円

**●弘前駅/弘南鉄道弘南線、JR奥羽本線**

**ばっちゃん御膳**

津軽の食習慣に徹底的にこだわったお弁当。郷土ならではの食材を存分に堪能できる。

1,050円

**新青森駅/JR東北新幹線**

**津軽金山焼弁当**

2012年注目度ナンバー1の新作弁当。容器には青森の手仕事「津軽金山焼」が使われている。

1,800円

**●津軽五所川原駅/津軽鉄道**

**津軽鉄道オリジナル弁当**

だざい弁当、ストープ弁当など津軽鉄道にちなんだ4種を、四季ごとに楽しめる。予約販売のみ。

1,000円

**駅弁を愛でる**

青森には、旅情をかきたてる青森らしき満載の駅弁がたくさんあります。中でも注目度の高い4品をご紹介します。

**黒石つゆやきそば**

「こみせ」で有名な黒石駅を降りたら、「つゆやきそば」は外せない。太めの平打ち麺が特徴で、酸味の効いたソースを合わせた黒石焼きそばは昔から子供たちのおやつだった。その黒石焼きそばに温かいスープを注いだのが「つゆやきそば」。また食べたくなる黒石グルメです。

**下北みそ貝焼(かや)き**

味噌貝焼きの由来は江戸時代からと古く、出汁に魚の切り身を入れ、自家製の味噌を溶き、ヒエ飯、アワ飯のおかずとして食べられていた。後に卵が入られるようになった。津軽では「貝焼き味噌」と呼ばれるが、下北では「みそ貝焼き」と呼ばれ、海藻のマツモやイカの塩辛などを入れるところもある。

**いちご煮**

ウニとアワビを薺につかったお吸い物で県南地方の郷土料理。湯気の興にあるウニの色合いが朝もやにかすむ野いちごに見えることから、名付けられた。現在は漁師の浜料理だが、現在では嗜れの席やお正月にはかかせない一品。

**八戸せんべい汁**

約200年前から八戸市を中心に三戸地方で食べられてきた郷土料理の一つ。鶏肉などで出汁をとった汁に野菜ときこの、そしてせんべいを手で割りながら入れる鍋料理。スープを吸ったせんべいが何ともいえないモチモチとした食感と適度な歯ごたえでクセになること間違いなし。

**青森生姜味噌おでん**

時代は青函連絡船の頃に戻る。厳寒の中、待つ乗客の体を少しでも暖めようと、ある一軒の屋台のおかみさんが味噌に生姜をすりおろして入れたのが喜ばれた。そこからはじまり、今では青森市でおでんにつけるものといったら生姜味噌。寒い時期はほっとする暖かさ。

**味噌カレー牛乳ラーメン**

札幌から伝わったラーメンを、青森市民に合うラーメンにしようとして試行錯誤する中、そこに通う地元高校生の注文から生まれた奇跡のソウルフード。味噌とカレーと牛乳が織りなすハーモニーは絶妙で、一度食べると癖になる青森起源のラーメン。一度は食べたい逸品だ。

**弘前いがめんち**

庖丁で叩いたイカの足(ゲン)を、季節の野菜などと一緒に小麦粉を混ぜ、油で焼いたり揚げたもの。食材のすべてを「無駄なく余すところなく使う」いがめんちは、先人の知恵と愛が詰まった食文化で「母の味」として受け継がれてきた郷土料理。ご飯のおかずや酒のつまみにもピッタリ。

**ご当地のソウルフードを訪ねて**

その土地の味を現地に赴き、堪能しよう

# JR五能線

開業年月日: 1936年(昭和11年)7月30日

川部駅 - 東能代駅 147.2km



シャッターチャンス!



森木駅のホームに立つと、目の前に広がる絶景にシャッターを押さずにはられない。



日本海に注ぐ白神山地から流れる赤石川。陸奥赤石駅手前であって、岩木山を背景に川に架かる鉄橋をリゾートしらかみが走ります。岩木山はここを過ぎたあたりから、目に入らなくなります。



深浦駅の手前、国道101号沿いの広戸地区から海手へ下りたところ一帯は、奇岩群が広がる絶好の撮影ポイント。リゾートしらかみはこの春から深浦駅から広戸駅間の一部も徐行ポイントとなり車窓の景色をゆっくりに楽しめます。

## 耳寄り情報

●リゾートしらかみ  
ワイドな車窓はもちろん、列車内では三味線や昔語りなど楽しいイベントも企画されるリゾート列車。くわしくはホームページをチェック!  
<http://www.jreast.co.jp/akita/>



▶鯉ヶ沢の新名物「ヒラメのつけ丼」。これを食べずして素通りはできない。  
(問)鯉ヶ沢町産業振興課 ☎0173-72-2111



▶唐揚げでも天ぷらでも竜田揚げでもないたこやき西海の名物「チキンボー(200円)」を買い食い。(鯉ヶ沢駅)



▲海彦山彦食の旅(鯉ヶ沢町・深浦町)  
(問)鯉ヶ沢町産業振興課 ☎0173-72-2111  
深浦町観光課 ☎0173-74-2111



▲海の駅わんど&相模館  
舞の海関をはじめ郷土力士達の「鯉ヶ沢相模館」も併設されている「海の駅わんど」のイベント狙いで行くと、遊びも食もお土産も◎だ。  
●大創業祭(6月下旬)など  
(問)☎0173-72-6661



▲「快速りんごの花風つ号」  
春の増発列車「快速りんごの花風つ号」に乗って、りんごの花いっぱいの風景や春の香りを楽しみたい。  
(期間)平成24年5月12日、13日(区間)五所川原～弘前(予定)  
(問)東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社運輸部企画課 ☎018-836-5313



## インフォメーション

青森県と秋田県にまたがり、津軽平野と日本海の海岸沿いを走る五能線の車窓から眺める景色は、多くの人を魅了してやみません。春には美しい白い花で覆われるりんご畑や、どこまでも広がる水田。夏には、秀峰岩木山の山容が変化していくのも飽きません。山間を抜けると突然視界が開け、目に飛び込んでくるのは荒々しくも雄大な日本海。鯉ヶ沢からの海岸線は「西海岸」と呼ばれ、奇岩怪石の多い海岸線なので、車窓から目が離せなほど美しい景色が続きます。岩礁を真っ赤に染めながら沈む夕陽。「日本海に夕陽が沈む時、ジュツと音がするんだ」と地元の人々が自慢するほどです。深浦駅では日によって「町づくり応援隊」「いへいふかうら」のメンバーたちがホームで手を振ってくれるのも嬉しい。海岸に露天風呂がある鯉ヶ沢、白神山地を望むレジャー施設「ウェスエスハ橋山」、神秘的な湖として知られる十二湖、白神山地への登山口など、魅力が尽きません。

## 沿線ガイド



沿線の見どころは何と言っても旅情がそえられる西海岸。列車はカーブが多いためゆっくりと走ります。深浦町に入ったらすぐの北金ヶ沢駅には、日本一の巨樹「垂乳根のイチヨウ」、千畳敷駅にはその昔、津軽の殿様が千枚の畳を敷いて宴を開いたという千畳敷海岸があります。さらに、広戸駅には日本

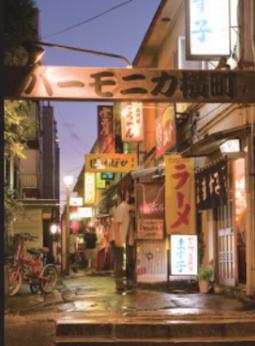
海に突き出した岬の行合崎。深浦駅には古い歴史のある円覚寺。また、沿線には大きなレジャー施設「ウェスエスハ橋山」「アオーネ白神十二湖」もあつて楽しさを満喫させてくれます。特に神秘的な湖「青池」は有名。海手の森山海岸では、小舟でしか行けない神秘的なガンガラ穴もお薦めです。

## 巡礼コレクション

乗って、観て、撮って、食べて、そして温泉も◎のJR五能線。沿線はやっぱり凄かった。お楽しみも見所も多いので、ディープなご当地グルメもチェック。味な途中下車もお楽しみです。

## お楽しみデータ

まずは、鯉ヶ沢町の特別観光大使に任命された「わさお」に、コンニチワ?しながら、四季を通して楽しめるJR五能線のイベントを巡ってみては?



### 大湊線発車時刻

Omato Line Departure Times  
for Shimokita & Omato  
for Shimokita & Omato

分	種別	行先	記号	時	分	種別	行先
Minute	Type	For	Symbol	Hour	Minute	Type	For
27	快速	大湊 1		18	19	快速	大湊
58	快速	大湊 1		19	52	快速	大湊
06	快速	大湊 1		21	03	快速	大湊
56	快速	大湊 1				快速	大湊
52	快速	大湊 2				快速	大湊
00	快速	大湊 1				快速	大湊



# 愛しきローカル線ガイド

青森県内のローカル線に揺られる旅には、いつしか溜ってしまつたところの緊張をもみ解いてくれるような、優しいパワーを持っています。まるで、こころが森林浴するように心地よい味わいに包まれ、きっと大らかで優しいキモチが芽生えてくることでしょう。さあ、つつこみどころも満載なお宝ローカル線の旅を存分に楽しもう!





# 弘南鉄道 弘南線

設立:1927年(昭和2年)9月7日/弘前~津軽尾上間

黒石駅 - 弘前駅 16.8km



## インフォメーション



弘南線と大鰐線は、弘南線と大鰐線の二つの地域で活躍する情緒豊かなローカル線です。  
 車窓からは、一面に広がる田園風景やりんご園、様々な角度から楽しめる岩木山など、四季折々の風景が楽しめます。田んぼに水が入り、りんごの花が咲く頃には岩木山の残雪も美しく、春風が心地良く吹きます。りんご園を走る電車は、手を伸ばすと赤いりんごが届きそうなくらい近くを走ります。  
 弘南線は、本州最北の城下町弘前と、今なお江戸時代の情緒を残す黒石を結んでおり、沿線では庭園、蔵めぐり散策の他、田んぼアートなども楽しむことができ、弘前の「いがめんち」や黒石の「つゆやきそば」など、寄り道感覚で食べ歩くのも楽しい路線です。

## 沿線ガイド

弘前駅から北へ向かって黒石駅とを結ぶ弘南線。車内から見える絶景ももちろん素晴らしいのですが、沿線では是非途中下車して実際に歩いてみて欲しい場所が数多くあります。新里駅ではSLが展示され、更にすむと現在では合併により平川市になった旧平賀町、旧尾上町があります。ここでは、11mの世界最大きな扇ねぶたの展示館や、大石武学流の見事な庭園と和洋折衷の非常に珍しい館の残る盛美園、猿賀神社。また、「ひらかわ案内人」と称して地元の人々がガイドをしてくれる取り組みも行われています。終着駅の黒石では趣のあるこみせを歩き、つゆやきそばなど地元グルメを味わいながら楽しめます。

# 弘南鉄道 大鰐線

開業年月日:1970年(昭和45年)10月1日/大鰐~中央弘前間 営業権譲受

中央弘前駅 - 大鰐駅 13.9km



## インフォメーション

弘前市の中心街、中央弘前駅を発車した電車は、高さ31メートルの最勝院五重塔を右手に見ながら土淵川に沿って大鰐へと向かいます。古く弘前市と温泉街の大鰐町を約30分で結ぶ大鰐線は、「ちよと街さびつくる」という感覚でまさに沿線住民の足です。  
 弘前大学や短大が沿線近くにあるためか、学生街の雰囲気も漂わせ、そしてひめく住宅地を抜けると、周囲はリンゴ畑に変。広域農道アップルロードと平行して電車は走ります。目を遠くへ向けると遠く八甲田が、後ろを見ると岩木山が見えます。電車はJR奥羽線と交差し、平川河川敷に架かる鉄橋を渡ると、間もなく前方に見えるのは大鰐スキー場として知られる阿闍羅山。そして終点の大鰐駅になります。この大鰐町は古くから弘前市の奥座敷と言われ、賑わってききました。電車で訪れる温泉旅も、思い出のひとつになるのではないのでしょうか。

## 沿線ガイド

中央弘前駅を発し、南に大鰐町までを結ぶ大鰐線。なんといっても昔から変わらぬ姿を残す中央弘前駅がまず魅力的です。改札は切符はさみで切符を切り、寒気はタルマストロープで汽車の時間を待つ。まさにローカル線の味です。また、石川駅から少し離れた場所にある「道の駅ひろさき」は地元民に大人気。新鮮な農産品や地元グルメが楽しめます。終着

## 耳寄り情報

●食べレール券(1,500円)  
 弘前~黒石間の往復きっぷと黒石市内のやさそば食べ歩き券がセットになった乗車券です。食べ歩き券は1枚で3軒食べ歩くことができ、やさそば・つゆやきそば・ドリンク等が選べます。(食べ歩き加盟店などの詳細は、黒石駅前にあるやさそばのまちな案内所「じょうからロード駅」にて)

## シャッターチャンス!



## 耳寄り情報

●さっパス(1,000円)  
 中央弘前~大鰐間の往復きっぷと大鰐駅前の温泉総合施設「鯉come」の入浴券がセットになった乗車券です。さらに200円の金券もついています。  
 <鯉come>  
 地元特産品やお土産ショップあり

## 巡礼コレクション

●津軽エリアの温泉巡りも楽しめる「ぐるっと津軽湯めぐり手形(1,200円)」を片手にローカル線を旅するのもいい。大鰐温泉では「不二やホテル」のお風呂に入れます。  
 (問)津軽ヤッテマレ会  
<http://www.tsugaru-kanko.com/>

## お楽しみデータ

●大鰐町のオススメ「温泉もやしラーメン」  
 温泉熱を利用して栽培された伝統的なもやしで、津軽三代藩主・信義が大鰐に湯治するときは、必ず献上したとされています。ソバもやし、マメもやしの二種類で、シャキシャキとした歯ごたえはとっても美味!

●大鰐町の津軽百年食堂  
 ●沿線の味を求め「津軽百年食堂」へ! 大鰐町には「津軽百年食堂」のモデルになったお店が3軒もあります。湯上がりには、大鰐名物の温泉もやしラーメンを食べれば大満足決定です。

## 巡礼コレクション

●新里駅の近くには、大正時代に設計された日本初の量産型SL48640号機が展示されており、冬季期間の降雪時に活躍する、ラッセル車が新里駅に停車待機する時間は絶好のツーショットが撮影できるのもお楽しみ!  
 ●ラッセル君ストラップ(500円)  
 ※弘南鉄道有人駅で発売

## お楽しみデータ

●忘年列車  
 12月上旬~中旬/計3回運転  
 お一人様 3,500円(飲み放題)

●納涼ビール列車  
 7月中旬~下旬/計4回運転  
 お一人様 3,500円(飲み放題)

## 巡礼コレクション

●弘南鉄道ふれあい感謝祭(10月)  
 毎年、鉄道の日(10月14日)を記念して行われる。ミニSLの無料体験乗車や本物の列車(約60t)を使った綱引き合戦、他にも鉄道グッズの販売やラッセル君と記念撮影コーナーなど、内容は盛り沢山。

## お楽しみデータ

●約2時間のちよい旅気分!  
 夏の納涼会、冬の忘年会には恒例のイベント列車で最高に盛り上がる。特に津軽伝統の郷土料理「けの汁」が味わえる「けの汁列車」は人気。

# 青い森鉄道

開業年月日:2002年(平成14年)12月1日

青森駅 - 目時駅 121.9km



東北新幹線新青森開業と同時に、目時・八戸間だった運行を、青森駅まで延伸したローカル線です。車窓に流れる長閑な景色や、ときどき絵を展示するギャラリー列車もアットホームな雰囲気です。等身大の暮らしの思い出を感じることもできる心の憩いスポットです。

また、JR東日本の八戸線や大湊線、津軽線、奥羽本線など各ローカル線ともつながる「わ」の鉄道として地元の人々に愛されています。

さらに、駅舎や車両イベントなどでも大活躍しているのがイメージキャラクター「モーリー」です。「森の中で、突然に生まれた青い色の木。周りのみんなと色が違つことにも思い悩んでいたけれど、青い森鉄道の車掌と出会い色が違つても自分は自分だよ、と教えられて自信を持つようになった。」という素敵な存在です。キャラクターグッズもいろいろ出ているので見つけたら是非コレクションの仲間に入れてください。



### インフォメーション

東北新幹線新青森開業と同時に、目時・八戸間だった運行を、青森駅まで延伸したローカル線です。車窓に流れる長閑な景色や、ときどき絵を展示するギャラリー列車もアットホームな雰囲気です。等身大の暮らしの思い出を感じることもできる心の憩いスポットです。

また、JR東日本の八戸線や大湊線、津軽線、奥羽本線など各ローカル線ともつながる「わ」の鉄道として地元の人々に愛されています。

さらに、駅舎や車両イベントなどでも大活躍しているのがイメージキャラクター「モーリー」です。「森の中で、突然に生まれた青い色の木。周りのみんなと色が違つことにも思い悩んでいたけれど、青い森鉄道の車掌と出会い色が違つても自分は自分だよ、と教えられて自信を持つようになった。」という素敵な存在です。キャラクターグッズもいろいろ出ているので見つけたら是非コレクションの仲間に入れてください。

### 沿線ガイド

浅虫温泉駅前には足湯があり、更に徒歩5分の源泉公園では、出来立ての温泉卵つくりも体験できます。

また、八戸・目時間は、馬淵川と幾重にも渡る鉄橋もあり、のどかな田園風景には、果樹園や名久井岳が車窓のポイントです。

浅虫温泉・西平内の間は、青い森鉄道線では唯一陸奥湾が列車の窓から眺められる湯島も綺麗に見えます。



# JR大湊線

設立:1921年(大正10年)3月20日

野辺地駅 - 大湊駅 58.4km



### インフォメーション

本州最北端の大間崎を目指すなら、むつ湾の沿岸線を走る大湊線です。野辺地・大湊を約1時間で結ぶ市民の足として愛され、車窓に広がる美しいむつ湾の景色が心を和ませます。

普通列車の他にも、青森駅八戸駅・大湊駅間を運転する「快速しもきた(4往復/日)」や、「リゾートあすなろ下北(2往復/日)」「(臨時列車)が運行していますので是非ご利用ください。



### 沿線ガイド

吹越駅・陸奥横浜駅界隈で観られる広大な菜の花畑を歩き、昭和の雰囲気を感じるむつ市で下北の味めぐりをハンコするという大人旅も。また、大湊界隈では旧日本海軍が創ったとされる大湊海軍ロッジや絶叫と噂の「海峡サーモン」等、隠れた下北グルメも見逃しません。

尻屋崎の寒立馬や、幻の大間線の跡地も点在する下風呂温泉、霊峰の恐山、景勝地の仙ヶ浦など、下北エリア見所や温泉スポットも多く広範囲なことから、むつ市内から出発している定期観光バスなどの2次交通を組み合わせると、ぐっとお楽しみが広がります。

キハ100形

### シャッターチャンス!



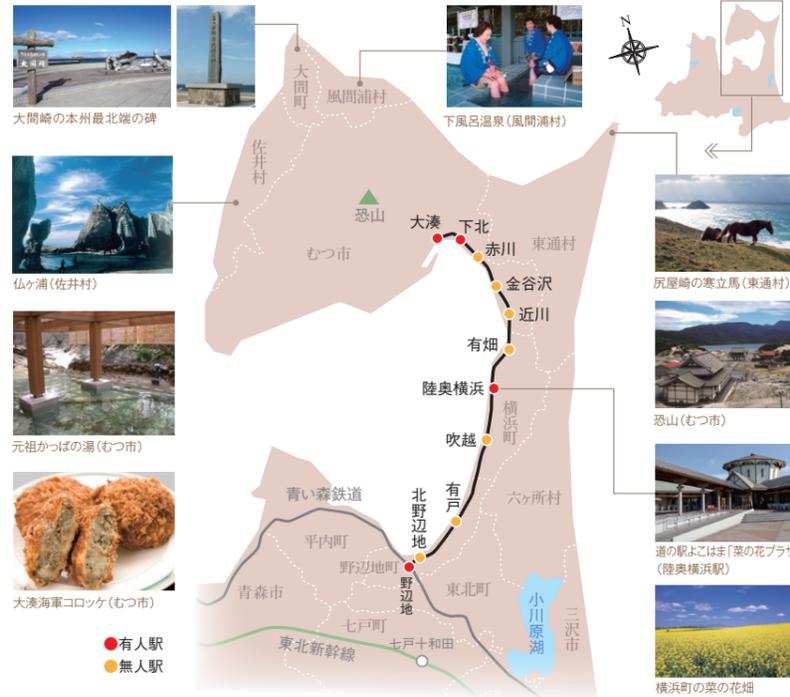
青森駅で乗車待ちをする「快速しもきた」。約2時間後は大湊です。



●リゾートあすなろ下北号運行日(2012年)  
4月/21, 22, 28~30  
5月/1~6, 12, 13, 19, 20, 26, 27  
6月/2, 3, 9, 10, 15~27, 30

### 耳寄り情報

●むつ市内から、下北エリアを攻略するなら!  
<http://www.shimokita-kanko.com/>  
むつ市内の主要ホテルから出発する「ぐるりんしもきた観光ルートバス」がオススメ。地元をよく知る(下北検定合格者の会)のガイドさん、地域の言葉で楽しく案内してくれるのでとても楽しい道中になります!  
運行日時・コース内容・料金等は、(問)下北観光協議会 ☎0175-22-1111



### 巡礼コレクション

大間を楽しむなら、地元大間を知り尽くす、おまエスコートクラブのツアーが人気です。名物ガイド「エビちゃん」の地元を楽しく巡る企画がいろいろある。まずはHPをチェックして問い合わせよう。  
(問)おまエスコートクラブ ☎090-7931-4509 <http://oma-escortclub.com/>

### 定番となった、モーリーグッズ

- ①ピンズハッパチ 500円
- ②携帯マスコット 550円
- ③ミニハンカチ 335円
- ④ボールペン(黒) 220円

▶ほたて広場のほたてソフトクリーム  
▶浅虫温泉駅から徒歩20分



### 巡礼コレクション

青い森鉄道には、降りずにいられない駅が多く点在する。運行本数もあるほうなので、沿線にある温泉スポットを湯巡りしたり、ローカルフードを訪ねて食べ歩いたり、カメラ片手に途中下車を楽しむながら全駅をドライブしてみてもどうでしょう?

### お楽しみデータ

幻の大間線跡を巡ったら、「遊(ゆ)めぐり札」片手に下風呂温泉郷で温泉三昧を楽しみたい。記念にもなるユニークな湯札は6ヶ月間有効なのでまた訪れても使えるのが嬉しい。また、下北エリア自慢の味も多く、2次交通をうまく活用しているいろいろ満喫して欲しい。

- ▲東北温泉 ☎0175-63-3715 (乙供駅より徒歩7分)
- ▲玉勝温泉 ☎0176-56-3007 (上北町駅より徒歩5分)
- ▲吉牧温泉 ☎0176-51-2121 (三沢駅より徒歩10分)
- ▲天然温泉まつゆ ☎0176-56-2276 (上北駅より徒歩3分)

### お楽しみデータ

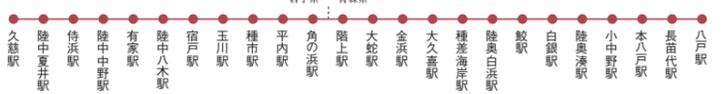
日本一黒いモール温泉「東北温泉」など、沿線の温泉巡りも楽しい青い森鉄道。八戸の市場のお母さん達との出会いや、横丁での語りもお楽しみもある。



# JR八戸線

設立:1894年(明治27年)1月4日

八戸駅 - 久慈駅 64.9km



キハ40系

シャッターチャンス!



随上駅にて、跨線橋がないためホーム間は線路のうえを歩いて渡るので、ちょっとドキドキしますね。



鮫駅では迫力の鮫がお出迎え。



冬でも車窓に覗く早朝の景色は美しい。

## 耳より情報

- 「八戸あさぐる」の朝市・朝ぶる参加ホテルから朝6時に出発する乗合タクシーで朝の賢況を満喫。  
(1)八戸中心街のホテル→1,500円  
(2)八戸駅前のホテル→2,800円
- ※上記は、往復のタクシー代+入浴代が含まれるおトクなコース例です。(HP検索)八戸あさぐる(問)八戸観光コンベンション協会 ☎0178-41-1661



▶「母が作ってくれた種差のいちご煮の味をこのラーメンに出した」という魂ラーメンを食べてみたい。JR八戸線鮫駅から種差海岸行きファンコインバス(100円)で、シーガルビューホテル下車すると便利。(問)海産料理処 小舟渡 ☎0178-33-3824



あつという間に超豪華!

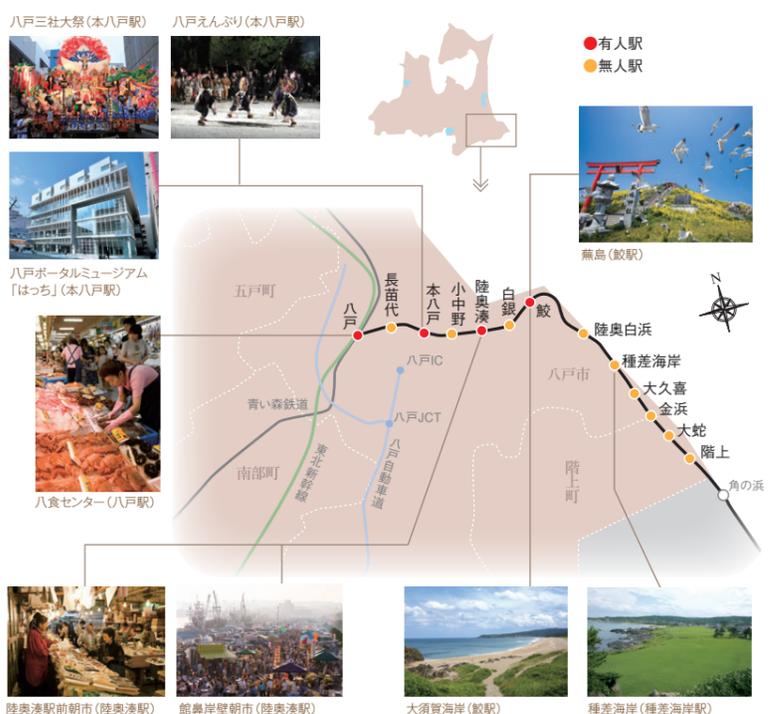
「うみねこレール」の愛称で親しまれてきたJR八戸線は、「八戸駅」から青森県の県境の駅「階上駅」を超えて岩手県の「久慈駅」までを走るローカル線です。震災の影響で「階上駅」以南を代替バスが繋いでしまいましたが、この3月17日より全線運行を再開。なんとか春に間に合うことができました。

「八戸駅」から沿線の住宅街を抜けていき、「鮫駅」が近づくにつれて、潮風とともに視界がぱあっと開けてきて、ウミネコの無島、白砂の海がなんとも美しい「陸奥白浜駅」や「種差海岸駅」へと太平洋沿岸を南下し、風光明媚な景色を往路・復路で車窓を楽しむのも心地がいい。

また「八戸駅」からは、八戸恒例の夏祭り「八戸三社大祭」や2月の「八戸えんぶり」の舞台となる市街地も近く、中心街らしい賑わいを感じながら、8つあるスタルジックな横丁巡りもお楽しみですね。

## インフォメーション

## 沿線ガイド



沿線をたづね楽しむには「早朝」がキーワード。日本有数の八戸漁港を抱える八戸の朝は早く、朝5時半過ぎくらいから始発電車が走り、朝市に向かう往來を支えており、中でも朝市と朝ぶるを巡ることができ、八戸あさぐるという乗り合いタクシーは人気で、八戸市内のホテルに泊まったらお勧めしたい極上の朝コースになっています。更には昔ながらの食堂として改めて注目されている人気食堂や、ローカルフードの買い食い巡りなど、奥の深い庶民文化が沿線の魅力になっています。

また、陸奥白浜駅から種差海岸駅の間には浜辺の遊歩道があり、1駅を途中下車しながら散策気分を楽しむこともできるので、是非お試しください。

## 巡礼コレクション



▲「リゾートうみねこ」

八戸線の全線再開は本当に嬉しい。お馴染みのキハ40型に乗って沿線を途中下車するお楽しみに加え、土休日はジョイフルトレイン「リゾートうみねこ」も八戸駅～久慈駅間を1日1往復するなど、パノラマ列車に乗れるチャンスも復活。

## お楽しみデータ



▲30年以上も地元で愛されている沖野商店の煮卵(30円)を、熱々のうちに食べたい。(陸奥湊駅)

# JR奥羽本線

「新青森駅」で東北新幹線を降りたらドコに行こう? 縦横無尽にリンクするJR奥羽本線の先には魅惑の各ローカル線が待っている。

【JR新青森駅】からローカル線で行く、乗りかえポイント

(※下記の所要時間は、普通列車に乗車した場合の参考所要時間です。ダイヤ改正や運行状況によって変化しますので、正確な所要時間は各駅窓口にてご確認ください。)

## JR津軽線 で三厩方面へ

- ① JR奥羽本線【青森駅】(約7分)で乗換え
- ①→②→ JR津軽線で【蟹田駅】へ(約50分)
- ②→ JR津軽線で【三厩駅】へ(約90分)

## JR大湊線 で下北方面へ

- ① JR奥羽本線【青森駅】(約7分)で乗換え
- ①→② 青い森鉄道【野辺地駅】(約45分)で乗換え
- ②→③→ JR大湊線で【陸奥横浜駅】へ(約30分)
- ②→③→ JR大湊線で【下北駅】へ(約55分)
- ②→③→ JR大湊線で【大湊駅】へ(約60分)

## JR五能線 で日本海側方面へ

- ① JR奥羽本線【川部駅】(約35分)で乗換え
- ①→②→ JR五能線で【五所川原駅】へ(約30分)
- ②→ JR五能線で【珍ヶ沢駅】へ(約60分)
- ②→ JR五能線で【ウェスバ椿山駅】へ(約80分)

## 青い森鉄道 で八戸方面へ

- ① JR奥羽本線【青森駅】(約7分)で乗換え
- ①→②→ 青い森鉄道で【浅虫温泉駅】へ(約20分)
- ②→ 青い森鉄道で【野辺地駅】へ(約45分)
- ②→ 青い森鉄道で【三沢駅】へ(約75分)
- ②→ 青い森鉄道で【八戸駅】へ(約95分)

## 津軽鉄道 で金木方面へ

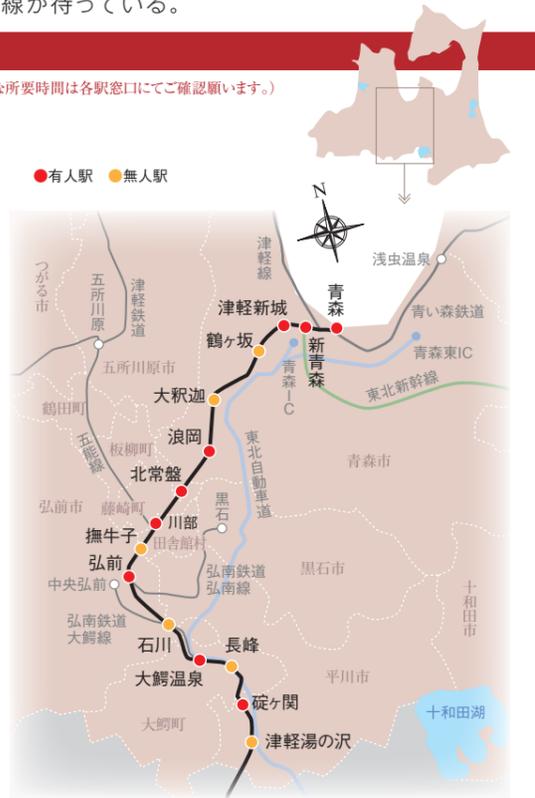
- ① JR奥羽本線【川部駅】(約35分)で乗換え
- ①→② JR五能線【五所川原駅】(約30分)で乗換え
- ②→③→ 津軽鉄道で【金木駅】へ(約20分)
- ②→③→ 津軽鉄道で【芦野公園駅】へ(約25分)
- ②→③→ 津軽鉄道で【津軽中里駅】へ(約36分)

## JR八戸線 で種差海岸方面へ

- ① JR奥羽本線【青森駅】(約7分)で乗換え
- ①→② 青い森鉄道【八戸駅】(約95分)で乗換え
- ②→③→ JR八戸線で【陸奥湊駅】へ(約15分)
- ②→③→ JR八戸線で【鮫駅】へ(約20分)
- ②→③→ JR八戸線で【種差海岸駅】へ(約30分)

## JR奥羽本線・弘南鉄道 で大鰐温泉や、弘前、黒石方面へ

- ① JR奥羽本線で【弘前駅】まで(約45分)
- ①→②→ 弘南鉄道弘南線【平賀駅】へ(約13分)
- ②→ 弘南鉄道弘南線【津軽尾上駅】へ(約20分)
- ②→ 弘南鉄道弘南線【黒石駅】へ(約30分)



●炭灰クッキー(60g300円)  
津軽鉄道とコミュニティカフェ「でる・そーれ」が共同開発した石炭灰クッキー。真っ黒な見た目とサクサクした食感がクセになる。  
【取扱店・お問い合わせ】  
コミュニティカフェ「でる・そーれ」  
青森県五所川原市大町39  
☎TEL0173-34-3971



●蓮根のお菓子  
平川市の老舗菓子処西谷が50年以上前からつくる、猿賀神社の蓮根を使用した非常に珍しいお菓子がクセになる。  
【取扱店・お問い合わせ】  
菓子処西谷  
青森県平川市尾上栄松61-2  
☎0172-57-2240



●ソフト焼きほたて(150g1,050円)  
うみねこパクダン...ご想像の通り、うみねこのファンをモチーフにしたという何とも大胆でインパクト大のお菓子です(笑)。  
【取扱店・お問い合わせ】  
下北名産センター北彩市場等  
☎0175-22-3231



●八戸うみねこパクダン(1,050円)  
うみねこパクダン...ご想像の通り、うみねこのファンをモチーフにしたという何とも大胆でインパクト大のお菓子です(笑)。  
【取扱店】  
八戸グランドホテル内など  
【お問い合わせ】  
NPO法人 ACTY ☎0178-24-7670



●弘前桜物語リップクリームと石けんのセット(1,050円)  
弘前公園のソメイヨシノを使用したリップと石けん女性に人気のご当地コスメ。ほのかに甘い桜の香りに癒される。  
【取り扱い店】  
弘前市まちなか情報センター等  
【お問い合わせ】  
弘前観光コンベンション協会  
☎0172-35-3131



●ふかうら雪人参「ぶちっとゼリー」(1袋12個入630円)  
雪の下で完熟させた甘みある人参をつかったゼリー。爪楊枝で刺すとぶるんと出てくるのが面白い。  
【取扱店】  
ウェスバ椿山物産館コロポックル等  
【お問い合わせ】  
深浦町観光協会  
☎0173-74-3320



●新郷黒飴(500ml入500円)  
新郷村の中心街にある創業50年雪の下で完熟させた甘みある人参をつかったゼリー。爪楊枝で刺すとぶるんと出てくるのが面白い。  
【取扱店】  
木村屋菓子舗  
【お問い合わせ】  
☎0178-78-2029



●ほたて十萬石(1個140円～)  
創業明治36年の老舗「カネセ高橋かまぼこ店」が丹精こめてつくる可愛いほたての形の焼きかまぼこ。プレーンタイプの他にわさび味、明太子味もありプリプリの食感と中につまった旨味たっぷりのマヨネーズがベストマッチ!  
【取扱店】  
アスパム、青森駅、ゆへさ浅虫など  
【お問い合わせ】  
カネセ高橋かまぼこ店  
☎017-734-0610

## あomorいローカル鉄道の旅

# お土産コレクション

せっかくローカル線の旅先で買う思い出の味だけに、「ちよっと、深いローカル味の味」を試してみたい。家に帰ってからも楽しめる二度美味しいお土産セレクト。